みんなの広場

はっらつ ところ 野老っ子

民俗文化の中での心理表現

大舘（だて） 勝治（かつじ）さん
（北野在住）

松尾芭蕉の紀行文にちなんで、奥の細道の旅、さらには広く旅を対象とした作品を募る『奥の細道文学賞』。今回は、2作目の小説『旅の花嫁』で同賞の優秀賞に輝いた大舘勝治さんを紹介します。

大舘さんは歴史資料館を最後に県職を退職し、民俗文化研究所を創設。多くの著書を出版されています。「民俗伝承の報告書には書けない話を小説に」という思いから、昨年、小説を書き始めました。

今回は、民俗伝承に見られる死者の旅姿や儀礼に、花嫁の嫁ぐ様を重ねたもの。「嫁入りする花嫁が、生家には2度と戻れないという気持ちで川を渡る。これは三途の川を渡る永遠の別れと重なります。その花嫁の不安な心理を表現しました」と語ってくれました。花嫁の祖父の葬儀と重なる部分を感じ、呪術的儀礼の意味を感じとる花嫁の姿が、すばらしく描写されています。

この小説は当時の花嫁や、花嫁を運んだ船頭に話を聞いて書かれています。そんな民俗研究の旅は数えきれないほどで、原点は大学時代にあります。教授の影響で民俗学と出会い、大きいリュックを背負い多くの場所を旅したそうです。時には、その姿から家出少年に間違えられたこともあったとか。

最近では、三重や岡山の棚田に感動されたようです。「世界遺産に相当します」と写真を見る目は輝いていました。「東北地方のなまはげも見たい」と大舘さんの民俗研究の旅はまだまだ続きます。

研究と同時に、大学や市の公民館で講師として民俗文化を伝えています。「日本の伝統行事を伝え、それぞれが持つ意味を教えることが大事」という言葉には、生まれ育った所沢の伝統を大切にするという気持ちも感じられます。

人との関わりを大事にする大舘さんは多趣味であり、小・中学校の同級生とゴルフを楽しむこともしばしば。そのバイタリティーが、生活全般に目を向ける民俗研究で、さらには小説という違った分野で活躍できる原動力となっているのでしょう。

ご自宅の研究所での大舘さんの話には、講義を独り占めしているようなぜいたくさを感じました。

現地での調査を終えて

▲中国では薬としても使われる桃の花。そのピンク色の花は、私たちに春を感じさせてくれます。
3月17日㈬／薬王寺

TOKOROZAWA ものしり ウォーキング 48

牛沼・東川の桜並木

東川の桜

市内の桜の名所のひとつに東川の桜並木があります。昭和39年に東京オリンピックの開催を記念して植えられたものです。当時の地元の新聞によると、埼玉県生活改善協議会などの複数の団体が協力し合い、下新井（現西新井町）から牛沼に至る約2㎞の東川両岸に、180本の桜が植えられたとあります。

東京オリンピックを記念した桜の植樹は全国的なものでした。当時を知る人によれば、植木や苗木の産地として有名な安行（川口市）で苗木を買い求めたそうです。

ところで、東川の桜並木の中でも牛沼の部分は川幅が広いため日当たりが良く、1本1本の桜が特によく育ったといいます。牛沼は歴史の古い地域です。牛沼の地名の由来は定かではありませんが、その昔、長栄寺の閻魔堂付近に沼があり、それが牛の形に似ていたからという伝説があります。

記録によれば、江戸時代、初めは所沢村の内で、その後分村して所沢村枝郷牛沼分と称したとあります。それは、地内にある神明神社が所沢の神明社から分祀したものであることからもうなずけます。

しかし、江戸時代前期の古文書や古絵図には「うしのぬま」「漆ノ間村」などの地名が確認でき、江戸初期には小規模な村を形成していたのではないでしょうか。また、元禄時代に発見されたという銅造薬師如来立像（市指定文化財）は、中世の鋳物師越坂部家吉の作によるもので、元徳4年（1332）の銘があります。

さらに、昭和36年に牛沼地内から発見された板石塔婆は貞治5年（1366）の銘のある供養塔です。これらのことから、中世のころには牛沼に職人や武士がいたことがうかがえます。

東川の桜並木は、オリンピックの年に植えられて以降、度重なる改修工事などで、当初植えた桜もだいぶ減りました。そのかわりに、ロータリークラブなどによって新たに植えられ、現在では西新井町から松郷までの間に、400本近くもの桜があります。

牛沼には、東川沿いに神明神社付近を整備した牛沼市民の森もあります。桜並木を見ながら、市民の森にも立ち寄ってみませんか。

牛沼市民の森

街かど ズームイン

▲盛りだくさんの催しが、翔（と）びたつ心を応援していました。市民手作りの「生涯学習フェスティバル」。
3月14日㈰／生涯学習センターほか

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「制服」▶新入生の初々しい制服姿がまぶしい季節です▶自分にもそんなときがあったと思う人も…▶制服は学生時代に限らず、社会に出てからも多方面で活躍しています▶皆さんの制服にまつわる話をお寄せください▶締め切りは4月13日㈫必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

▲探している本は見つかりましたか。多くの本と人でにぎわった「彩の国古本まつり」。
3月10日㈬～16日㈫／くすのきホール

少分イフル ふれあい館「エコロ」不用品ガイド

- **譲ります**　▷男子用スーツ▷プランコ▷スタッドレスタイヤ▷加湿器（鼻・のど併用）▷ウォーキングマシン▷2段ベッド▷ミシン▷二槽式洗濯機▷ステレオ▷テレビ▷オルガン▷油絵道具一式▷ノートパソコン▷ワープロ
- **求めます**　▷14型テレビ▷ビデオデッキ▷絵本▷ギター▷ドラムセット▷茶がま▷天体望遠鏡▷ベビーベッド▷パソコンモニター▷小型耕うん機▷自転車（14インチ）▷硬式用バット▷布団乾燥機▷スクーター（50cc）▷電子ピアノ▷ピアニカ▷食器棚

受付方法　電話による先着順で紹介します。
休館日　月曜日、祝休日
申し込み・問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎2994-5374・FAX2994-1118）

誰でもエッセイ

テーマ　桜

桜が咲いたら…

下安松・辰田　まゆみ

目に映る景色がほのかに色づく中で、娘は桜が咲くのを待っています。楽しみにしていることが2つあるのです。

1つは、大好きなピクニック！もう1つは、この春、幼稚園の年少から年中へ上がることです。「梅が咲いたね。桜は咲いたかな？」と待ち遠しそうです。

真新しい園服に身を包み、幼稚園の門をくぐった春の日から1年。ボタンの1つ1つに集中し、朝ドキドキしながら幼稚園バスに乗り込む姿。入好きな先生や友達と一緒に過ごすうれしさを感じながら、親も子も無我夢中の1年でした。

桜が咲き、新しい出会いがもうそこまで来ています。あの春のボタン1つに一生懸命だった気持ちを忘れずに、新しい季節にチャレンジしていければいいなあと思います。

桜

中富南・佐渡　純子

「桜がきれいだよー」入院先の窓から外を見ながら、白衣の医師は私に教えてくれた。

「もう咲きましたー？」と車いすから伸び上がるようにして外を見ようとしていた私を、ガッシリと持ち上げて窓のそばまで連れて行き、「見える？」と医師は聞く。「とてもきれいです。よく見えます」。50㎏は超えていたと思う私を、よくも抱えてくれたものだと後になって感心した。手術後の私への元気づけだったのであろう。そのときの航空公園にある桜の木々の濃淡の美しさを、今でも覚えている。

この時期になるとあの桜を思い出し、あのときの私と同じように、今も病院から桜を眺めている病む人たちを思うにつけ、「病気なんてなくなればいい」と念じてしまう。

遠い思い出桜

久米・和泉　昭子

私の記憶にある桜との出会いは、小学校入学のときの国語の教科書。表紙をめくると、満開の桜の中を着物姿のお母さんと手をつないで校門に入る男の子の後ろ姿。あざやかな桃色の桜が私の脳裏に鮮明に残っています。

『咲いた咲いた桜が咲いた。僕も私も一年生』。村の小さな学校だったので、その当時、桜の木はありませんでしたが、教科書の桜が入学を迎えてくれました。その絵を見る楽しみ、そして子ども心にも胸のときめきを充分感じさせてもらいました。

あれから50年ちょっと経ちますが、あのときのような感動を受けた桜にはめぐり会っていません。もうすぐ来る春とともに、思い出をいっぱいにしてくれる『心の桜』が咲きます。

桜めぐり

堀之内・新藤　寿子

雪がやっと消え、花冷えのするころ、故郷ではお花見が毎年開かれていました。それは、家族のほかに親類縁者も集まっての大宴会です。

お花見の場所は、郊外の花が咲き乱れる公園でした。時には家の窓を開け放し、庭の桜を見ながらということもありました。長い冬を越え、待ちわびた春。それは正に、桜に象徴されていたような気がします。

「最近、しみじみ桜を見る機会がなくなったなあ」と感じています。今年は、カメラ片手に市内のあちらこちらを桜めぐりし、また新しい思い出を増やしていきたいと思っています。

母を思い出して

小手指町・長沼　典子

昨年の3月30日、実家の裏にある土手を母と散歩した。まだ一分咲きの桜をいとしそうに見上げる母の顔があった。

その4日後、危篤。病院のベッドの上で桜の開花を気にかけながら、半月後に帰らぬ人となった。心臓の持病を抱えていた母だったが、それは思いもよらぬことだった。

入間市にある実家のそばを流れる川の両側を、桜は毎年それは見事に淡いピンク色で彩り、並木を作る。もうそれを見ることもない母と昨年歩いたその小道へ、同じころ咲き初めの桜に、会いに行きたいと思う。

桜の景のすばらしさ

三ケ島・瀧上　英子

昭和54年2月、小手指町へ転居しました。小手指公園の横にある砂川堀の両岸には、しだれ桜の若木が並木として植えられていました。花どきには、か細い枝にわずかな花が揺れてかれんな感じでしたが、桜の木は年ごとに育ち、10年もたつと立派な桜並木になりました。

今では幹はひと抱えほどになり、豊かな枝は地をはい、濃淡のピンクの花がわずかなカーブの堀に沿ってずっと続いています。その景はとてもすばらしい眺めです。

友との吟行に、遠方からのお客様のご案内にと、花どきには充分楽しませていただいています。

とことこ 町内会めぐり

【中新井自治会】
～3世代のふれあいを求めて～

中新井自治会は米軍所沢通信基地の北側に位置し、中新井1・2丁目、大字中新井に居住している方で構成しています。昭和47年に270世帯ほどで発足してから30年がたち、今では900世帯が自治会に加入しています。

3年前には「栗の木公園」が設置され、乳幼児から高齢者まで多くの人が憩いの場として利用しています。

自治会活動では、地域住民の交流と親ぼくを深めるために、「夏まつり」を開催しています。子ども会育成会や長生会などの地域団体の交流により、子どもたちと高齢者のふれあいの場となっています。このように、誰もが気軽に参加でき、お互いに助け合えるような行事を提案しています。

今年の1月末には「昔をたずねて」という新企画を立て、中新井の歴史をひもとき、昔の遊びを教えてもらったり、皆ですいとんを食べたりして冬の1日を有意義に過ごしました。

また、月に1回、集団資源回収を行い、リサイクル運動にも積極的に協力しています。

そして3月には、会員待望の新自治会館が栗の木公園の隣接地に完成しました。公園に隣接した自治会館は市内でも珍しいそうです。

これからも、この恵まれた環境の中で誰もが楽しく暮らせるように、さまざまな活動を展開していきたいと考えています。

自治会館と栗の木公園

次回のテーマは「制服」です